

香川の 古木・巨樹 樹勢回復推進事業 について



香川県 環境森林部 みどり保全課 (文責 中本和美)

樹勢回復治療 (畠田神社クスノキ)

経緯

香川県の古木・巨樹は、国・県及び市町が天然記念物・自然記念物・保存木等に指定し、所有者等の協力により保全管理に努めてきたところですが、昨今の社会情勢の変化や財政事情等から、十分な対応が困難となっており、枯損したり指定解除せざるを得ない事例が増えています。このため、香川県では、平成22年度から24年度の3年間で、市町やNPO法人等と連携し、指定されている300件あまりの樹木や社叢等の調査を行い、その健康状態の診断と、樹勢回復治療(香川の古木・巨樹樹勢回復推進事業)を行っています。

樹木調査

樹木調査については、「NPO法人香川のみどりを育む会」(*1 以下「かみは」という。)による生物学的観点からの調査、「NPO法人瀬戸内オリーブ基金」(*2 以下「オリーブ基金」という。)による人文科学的観点からの調査を実施しました。

対象は県内の指定されているすべての樹木・樹林305件(天然記念物、県自然記念物、香川の保存木、市町指定保存木)で、鳥しよ部も含め県内一円を調査しました。

単木については、樹勢や樹形、枝の



樹木調査 (梵音寺のタブノキ)

伸張・枯損、枝葉の密度や葉色等による「衰退度判定」を行い、その状況を「樹木カルテ」としてデータ化しました。そのうち、判定が「良」であった樹木はわずか23.4%で、その他の樹木が「やや不良から著しく不良」でした。

香川県は日照時間も長く、温暖寡雨な気候の土地柄ですが、ここ数年の異常気象や渇水、台風・突風による大枝の枯損からの主幹の腐朽、根元近くまでコンクリートなどで踏み固めるといふ根茎部の問題、タケやササの侵入による被圧の影響など、樹勢の衰えの原因は多岐にわたっています。

社叢や樹林については、タケやササによる侵入が半数を超えており、また、外来種(ニワウルシ等)の侵入、マツクイムシ被害によるクロマツ・アカマツの衰退など、以前の樹木構成から変化しつつあることが、調査で明らかになっています。

樹勢回復治療

調査の結果、樹勢回復治療が必要と判断された樹木については、かがわ水と緑の財団やオリーブ基金の助成を受けて、かみはが中心となって樹勢回復治療を行いました。香川県の樹種構成では、クスノキが占める割合が高く、土壌改良や枯枝の伐採等、クスノキの治療が多く行われました。

また、「志々島の大クス（県天然記念物）」、「JR讃岐財田駅前のタブノキ（香川の保存木）」は、オリーブ基金の「大きな木プロジェクト」の対象となり、地元ボランティアの協力を得ながら、数年をかけて樹勢回復治療を行っています。

春と秋の年2回、バスやチャーター船を貸切り、一般公募による「古木・巨樹を巡るツアー」を実施しました。樹木医から専門的な話を聞く貴重な機会として、毎回定員を大きく上回る応募がありました。好評をいただきました。



古木・巨樹を巡るツアー

県では、「古木や巨樹に関心をもち、「樹木は地域で守る」という住民の意識を高めてもらうためにも、今後も広報活動や情報提供を積極的に行うとともに、市町やNPO法人などの協力により「樹木カルテ」の更新や樹勢回復治療を行い、県民の貴重な財産でもある古木・巨樹を



樹勢回復事業（財田駅前のタブノキ）

*1 「NPO法人香川のみどりを育む会」とは平成17年に香川県樹木医会、香川県緑サポーター会の有志が中心となり緑豊かな香川県の実現を目指して設立。現在、県内の植生管理事業、樹木保護育成事業、環境調査事業、環境教育事業等の活動を行っています。

*2 「NPO法人瀬戸内オリーブ基金」とは <http://www.olive-foundation.org/>平成12年11月に、瀬戸内海の沿岸や島々に100万本の樹木を植えることを目的に設立。平成19年8月、NPO法人化。現在、緑化や自然保護のために活動している団体や個人に、事業資金の助成を行っています。

香川県環境森林部みどり保全課

みどりの保全にかかる施策の推進に関することとして、自然公園や自然歩道「四国のみち」の管理、保安林や林地開発許可等に関する事務や、鳥獣の保護・狩猟の適正化・希少野生生物の保護に関する事務等、かがわのみどりを守るための業務を行っています。

古木・巨樹を巡るツアーの実施

古木・巨樹は、古くから地域の人々の関わりを持ちながら保存され、また社叢は信仰の対象として大切に守られてきました。しかし現在では、管理者が代替わりしたり、住民の意識変化による樹木への苦情問題など、古木・巨樹を取り巻く環境は大変厳しい状況になってきています。

調査を終えて

地元の方にも知られていない古木や巨樹も多く、何百年と永らく生き延びてきた樹木とふれあうことにより、樹木への関心につながったのではないかと思います。



志々島の大クス

「うどん県。それだけじゃない香川県」へ

守っていききたいと考えています。

この言葉は、香川県の新しい観光用キャッチフレーズです。今年の3月からは、「瀬戸内国際芸術祭2013」が開催され、芸術祭の会場の島々でも古木・巨樹にふれあうことができます。オリーブで有名な小豆島には、国の特別天然記念物の「宝生院のシンパク」があり、その隣にある豊島には、スダジイ純林の「豊峰権現社の森」などがあります。

うどんだけじゃない「古木・巨樹巡り」に、香川県へいらしてみませんか？

香川の古木・巨樹の情報は、「香川の自然ガイドマップ」HPへ。 <http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/shizen/guidemap/index.htm>



宝生院のシンパク

「巨樹・巨木林 no. 46」に掲載された文
書を、発行者の「全国巨樹・巨木林の会」
の了承を得て転載しました。

NPO 法人瀬戸内オリーブ基金